

日吉台地下壕保存の会会報

第56号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号 00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ : 白鶴 邦子

神奈川区白幡向町 20-49

045-402-9090

その他のお問い合わせ : 喜田美登里

港北区下田町 2-1-33

045-562-0443

年頭にあたって 会長 大西 章

日吉台地下壕保存の会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

この保存の会もこの4月で発足以来12年が過ぎようとしています。この運動がこのように長く継続していただけるのも会員皆様の方の熱い支援及び運営委員方々の協力の賜物と思います。深く感謝している次第です。

今年は特に新しい世紀を迎える年でもあり、この運動の社会的な役割や重要性がますます大きくなると考えられます。戦争をまったく知らない新しい世代に戦争の悲惨さを伝えるときにただ書物から伝えるだけでなく、戦争遺跡として実存するモノを提示し、そこから学んで平和を考えてもらいたいと思っています。未来に向けた遺跡として日吉台地下壕をとらえ、保存運動を続けていきたいと考えています。

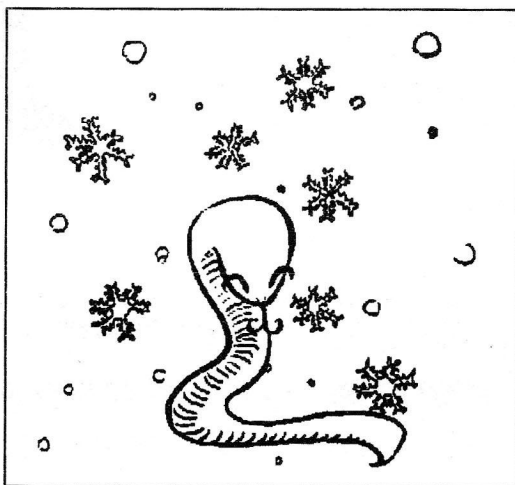
さて昨年の活動で今までと大きく変わっ

たことはこの会の組織が徐々に整いつつあることです。毎月の定例運営委員会及び地下壕見学会の開催、今号から会報の編集、平和のための戦争展の開催、地域や慶應義塾への働きかけ、神奈川県・横浜市など行政との交

渉、全国各諸団体との連絡及び連帯などを運営委員が責任を持って出来る体制に成りつつあります。運営委員方々も仕事を家族を持ちながら、時間の合間を縫って担当していただいています。これからも根気よく、また明るく前向きに運営していきたいと思っています。また少しでも時間に余裕のある方がおりましたら、是非に運営委員

会に参加していただけたらと思います。よろしくお願いします。

この会は日吉台地下壕を戦争遺跡として学術調査・研究を進めていくと同時に保存することにより後世に伝え平和を追求してい



【目次】 年頭にあたって

【報告】艦政本部地下壕保存要請への市回答

1~2頁

【特集】李圭植さんからの大倉山の大地下壕(倉庫)についてのお話

2~3頁

戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会に向けて

3~5頁

若者たちと戦争展

6頁

活動の記録、本の紹介、ビデオの紹介

7頁

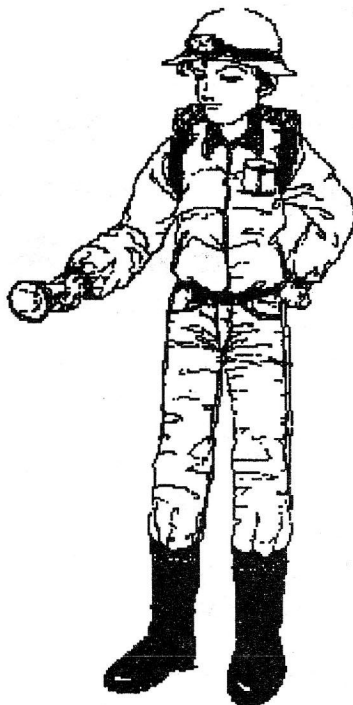
8頁

※連載「日吉台地下壕 当時の関係者の思い出話」は今号はお休みさせていただきます。

くことにあります。昨年は3つの大きな出来事がありました。1つは「横浜・川崎平和のための戦争展」が慶應義塾大学日吉キャンパスで開催されたことです。この地下壕の大部分は慶應義塾大学の足下にあります。その場で開催されたことは意義深いことと思います。この戦争展は慶應義塾大学名誉教授の白井先生、経済学部松村教授の講演、日吉キャンパスピースウォークなどを行い、多くの参加者及び慶應義塾に地下壕保存の大切さを伝えることが出来ました。慶應義塾にもいくつかの前向きな対応が起きつつあります。2つ目は箕輪の森艦政本部地下壕が埋立ての危機にあることです。この壕は未だに精確な学術調査がありません。横浜市に調査の要請書を提出しつつ、保存の会独自で数度調査を実施しました。しかし、状況は明るくはありません。粘り強く交渉を続けていきたいと思っています。もう1つは戦争遺跡保存全国ネットワーク高知大会に参加し、戦跡保存運動のグループとの交流です。このネットワークには発足より運営団体として参加してきました。この交流を通して、我々がそこから問題を認識し学び、また勇気つけられたかは語るに及びません。第5回全国大会が今年神奈川県で開催される予定であり、主催団体の1つに名前を連ねています。是非皆様の支援のもと成功させたいと思います。

今年も昨年同様に地域や社会に密着した

運動を基本としつつ、横浜市に慶應義塾に働きかけ、また全国の保存運動と一緒に進めたいと思います。100年後に21世紀は平和な世紀であるとまとめられるように努力をしたいと思います。皆様のご支援をお願いします。



[報告]艦政本部地下壕保存要請への市回答

戦争遺跡としての意義を無視

粘り強い保存要求行動を継続していこう

会報 55 号でお知らせした、横浜市長宛ての「日吉台海軍艦政本部地下壕の保存要請」に対し、10月23日に次頁に掲載した回答を受けました。

地下壕のある箕輪の丘は現在、神奈川県横浜治水事務所が急傾斜地の防災工事を進めています。地下壕の封鎖については公園予定地の下は緑政局公園部建設課、住宅地の下は災害対策室防災技術課の担当で、来年から工

事に入る予定。

このままでは文化庁の詳細調査の方針が出る前に地下壕が埋められてしまうことになってしまいます。

厳しい状況ではありますが、たとえ、工事が始まっても工期は数年の期間がかかります。何らかの形で保存を実現するために、今後行動を継続していきましょう。

市広聴第4108号
平成12年10月23日

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会
代表 大西 章 様

横浜市長 高秀 秀信

「日吉台海軍艦政本部地下壕」の保存等について(回答)

さきに要請のありましたことについて、次のとおりお答えします。

1について

近代遺跡は、国・地方とも基本的な分布調査を行っている段階で、当該地下壕の本格的な調査を行うことは、困難です。

2について

現状では「日吉台海軍艦政本部地下壕」を文化財としての価値判断を行う状況にありませんので、文化財指定並びに地方公共団体の立場で一般公開することは困難です。

3について

本市では、特殊地下壕のうち崩れる危険性のある部分や、人が内部に入って迷子になる恐れのある場合には、埋戻しや入口部の閉鎖を行うこととしています。

日吉本町三丁目にある特殊地下壕については、平成11年9月28日に地元の地権者等の意向を確認した結果、安全対策の実施を強く要望されており、地元の説明のうえ、秋から工事を実施する予定です。

入口部のうち一箇所に扉の設置をとのご要望については、

- (1) 特殊地下壕内や扉の鍵の管理者がいない
- (2) 所有者等からの要請もない

ため、コンクリート等による入口部閉鎖を行わざるを得ず、扉の設置(鍵付)はできません。

以上のとおりですので、ご理解とご協力をお願いします。

この旨ご了承いただき、貴会の皆様によろしくお伝えください。

[特集] 李圭植さんからの 大倉山の大地下壕(倉庫)についてのお話

会員 茂呂秀宏

1、経過

昨年10月上旬、久しぶりに日吉の孫正寅・百合子さんから連絡がありました。その内容は、日吉の地下壕を掘った李さんという朝鮮人の方が見つかったこと、その方のお話では、掘った人がほとんど処刑されたというショッキングなもので、また、お話を直接聞くことができるという内容でした。

この件は今から10年以上前に保存の会を結成した当初に孫さんにお願いすると

もに、私たちも証言できる方を捜し、調査をし続けてきたことでした。

しかし、努力のかいもなく、ほとんど手がかりになる情報もなく、あきらめかけていたことでしたが、孫さんは、私どもの10年以上前の依頼を記憶されており、ずーと手がかりを捜し続け連絡をしてくれた次第です。

11月4日(2000年)に当事者の李圭植(リキュシツク)さんから孫さん宅でお大変貴重なお話を聞くことができました。以下その聞き取りメモです。(次頁につづく)

() 内は聞き取りをしているものの発言です。

2. 李さんの証言の概要

(これはこの聞き取りの中から筆者がまとめたものです。)

■李さんの経歴について、

- ・1920年10月生まれ(80歳)
- ・9歳で父のいる日本にくる。
漁船(キャッチャーボート)で働いているとき、船が徴用される。
- ・19歳で海軍に入る。横須賀で訓練後、505設営隊入隊、海軍技術下士官となる。505部隊には、台湾部隊 朝鮮部隊 北海道部隊、九州部隊などあり、朝鮮部隊の責任者となる。豊洲に本部があり、厚生省の地下壕、日吉の地下壕などを掘る。

505部隊はその後トラック島、サイパン島(テニアン島)に送られほぼ全滅、戦後テニアン島に李さんは慰霊碑を立てる。

■李さんのお話の概要

・一銭五厘で引っ張られた。19歳のときキャッチャーボートに乗り漁船の仕事をしていたとき、その船が徴用され、軍人になるのか、徴用工になるのか選択をせまられた。

・軍人になることを選んだ。それで横須賀で半年間教育隊に入り、そして豊洲の石川島造船所にいった。それが505部隊の本部だった。約4000人いた。芝浦にも部隊はいた。

・石川島にいたのは、ほとんど徴用工だった。軍人は少ない。

・軍隊の中での位置は海軍技術下士官であった。所属する部隊が日吉にくるまえに、霞が関で地下壕を3つ掘った。1トン爆弾にたえられるものを厚生省の下で掘った。

505部隊長は兵藤さんであった。その人は前畑秀子の夫である。その人の実家は木場の材木屋である。その人をバイクにのせ木場まで行っている。

・次の仕事は、日吉だった。私は輸送隊だった。直接壕は掘らなかった。

505部隊には、台湾部隊、北海道部隊、九州部隊、朝鮮部隊の四つの部隊があり、自分は朝鮮部隊に所属していた。地下壕を掘ったことには間違いはない。

・昭和20年の桜の咲くころ大倉山でも大きな倉庫の地下壕を掘った。東京裁判で困る書類を霞が関の海軍省から運び込んだ。100台以上のトラックで極秘資料を運んだ。戦争に負けるとわかっていてからであろう。

場所は東京から行って大倉山の先の綱島街道を左に入ったところ。深く掘り、書類を入れたあと最後に入口にコンクリートを流し、木を植えて秘密を守った。20人ぐらいしか最後はいなかった。その後どうなったのかわからない。

・ここを掘った部隊はほとんど南方にいった。トラック島へ飛行場の建設にいった。

(そこで処刑された?)

処刑ではなく戦死した。最後はテニアン島にもいった。そこでほとんどが戦死した。

15年前そこに碑をたてた。石を米軍の横田基地から運んだ。

(事実上の処刑ですね)

・大倉山の地下壕の大きさはトラックが入るぐらいの大きさである。完全に地下であった。長さは300メートルはあった。

・時期は桜が咲いているころである。壕の場所には小高い山があった。

兵藤大尉から秘密保持を命じられていた。兵藤さんは当時は大尉でこのことを成功させて、中佐になった。

・最初は霞が関の書類の移転先は東村山のはずだったが、横須賀から遠いというので大倉山にいった。

(大倉山を掘ったのは505部隊です)

か?)

・大倉山を掘ったのは馬淵建設か、花咲産業のどちらかです。505部隊は日吉を掘った。

・石川島に505部隊の本部があった。徴用工の飯場は日吉にあった。

・自分は資材を豊洲から運んだ。また、砂や砂利を多摩川から運んだ。トラックの運転をした。壕の中に入ることはしなかった。あまりそばに寄れなかった。

(徴用工の現場指揮をしていたのはだれですか。)

日本人で村井というのがいた。これが一番の指揮をとっていた。

・豊洲で朝鮮部隊がストライキの噂がでた。ソ連のスパイがやったという。自分たちは非常に責められた。でかいはんごうの裏にストをやろうということが書かれていたということがあとからわかった。

・書いた本人はつかまって死刑になったと聞いた。

・自分たちは責任を追求された。真っ暗い部屋で何度も訊問された。下士官だから殴られはしなかった。

(日吉の505部隊がトラック島へいかされたのですね?)

・日吉の壕を掘った700人ぐらいの505部隊はトラック島へすべていかされた。

・トラックで生き残ったのが、テニアン(サイパン)に行った。サイパン島ではほとんど死んでいるが、生還し朝鮮に帰っている人もいるとの話も聞く。

(大倉山の地下壕は民間の会社が請け負ったのですね。)

・馬淵建設か、花咲産業のどちらかです。

(そこでは朝鮮人はつかわれていなかったのでしょうか。)

(民間企業にも強制的徴用された朝鮮人はいたはずです。)

(もしも生き残っていれば、証言者として出てきているはず。)

(ただ、証言することは非常に勇気のいることです。)

・終戦のあと、徴用された船に乗って帰った。横須賀で北へいくものと南に行くものの二手に別れ帰った。

■その後の情報

この聞き取りのあとすぐその日の午後、李と孫さんが大倉山に行かれました。そこで全くの偶然ですが、熊野神社の近くにお住まいで当時の様子を記憶していたご老人にお会いしました。その方(Eさん)と李さんは、その場で地下壕の入口の場所を確認しました。Eさんから、8/15の後米軍が入る前までの間に、地下壕の書類を1ヶ月半かかり燃やしつくし、地下壕倉庫も破壊されたというお話を聞きました。李さんの証言が裏づけられたことになりました。最初にお話を聞いた時、もしもこの大地下倉庫が今も残っており、少しでも隠蔽した書類が出てきたら、日本の歴史を書き換えなければならないようなことが出てくるのではないかという話をしていたのですが、残念ながら焼却という結果が判明しました。しかしそうだからと言って、この李さんの証言の価値が薄れるものではありません。これによって、日吉の地下壕建設に徴用された朝鮮人が使われていたということが、当事者の証言から裏づけられたわけです。不十分な点はいろいろあると思いますが、今の段階で新たに分かったことも多くあります。同時代に生きるものが少しでも歴史を共有するという意味においてこの証言録を李さんの了承の上、掲載させていただきました。これから、さらに現場の調査や聞き取りを続けていきその実態に迫っていきたいと思います。

この日の李さんの証言に引き続き12/10に保存の会の4人の会員が再度お話を伺っています。次の機会に報告したいと思っています。

戦争遺跡保存全国シンポジウム

神奈川県川崎大会に向けて

—真の文明は神奈川の沃野から—

現地実行委員会会長 慶応大学名誉教授 白井 厚

20世紀は、文字通り戦争の世紀でした。2度の世界大戦、ベトナム戦争、湾岸戦争・・・科学技術の発達は、大量虐殺の技術も発達させました。19世紀までに人類が行ったすべての戦争の犠牲者数を合計しても、20世紀に戦争で殺された人の数に及ばないという研究まであります。確かにナチスのユダヤ人虐殺で600万人、東京大空襲、沖縄戦、2度の原爆投下・・・中国大陆における日本軍侵略の犠牲者は、2千万人とも3千万人とも言われています。日本は、アジア太平洋戦争において惨敗しただけではなく、国の内外において、大変な悲劇をもたらし、さらにその戦後処理においても大失敗をしました。いや、それにとどまらず、なんと戦争の事実そのものが、特に若い人の脳裏から消えつつあります。12月8日の頃、私は大学でこの日は何の日かと問いかけたら、多くの学生は知りませんでした。当日の新聞やテレビでも、この日を取り上げたものは殆どありません。アジア太平洋戦争の日本の歴史上最大の事件であり、最大の過ちであったのに、今や戦争体験を語る人は激減し、戦争犠牲者は忘れ去られ、戦争の遺跡は次々に抹消されています。こんなことで日本は文明国と言えるのでしょうか。

昨年8月、私は戦争遺跡保存全国シンポジウムに初めて参加しました。それは本紙の前号に新井揆博さんと谷藤基夫さんが書いているように、高知県南国市で行われ、200人以上が全国から集まって、とても有意義な会でした。その時に活躍した高知県の実行委員の人たちが着ていた紺いＴシャツの胸には「自由は土佐の山間より」と書いてありました。自由民権思想家 植木枝盛の言で、山間で独立不羈の自由人を育てた郷土を誇れるとは誠に羨ましい。

さて、今年は、かねてから西高東低の戦跡保存運動を、改善すべく求められていた神奈川県で、第5回の戦跡保存全国シンポジウム大会が開かれます。長野ー沖縄ー京都ー高知と続いてきた大会が初めて首都圏で開催されるので、保存運動のネットワークが、文字通り全国ネットワークとなるような、充実した大会になるよう願っています。

また昨今は、戦力増強、海外派兵の気配が濃くなってきたというだけでなく、戦争体験を語る人が激減し、戦争の物的資料も少なくなり、IT革命の波の中で、建造物も次々に建て替えられるという由々しき時代となっています。そのために戦争の事実は故意または不注意によって誤り伝えられ、このままでは、真相は永遠に不明となってしまうかも知れません。そのことは慶應義塾関係の戦没者調査を行った私のゼミナールのささやかな経験でも痛切に感じられたことでした。

多くの良港を持つ神奈川県は、かつて西洋文明の吸収口として大きな役割を果たしました。それによって、開国後の日本は急速に近代化し、世界の強大国となって「神の国」などと歴史を捏造して、戦争への道を進みました。皇国史観も連戦連勝物語も大本営発表もこんなものは科学でも文明でもありません。今、我々は戦争遺跡の上に立って、過去の誤りをしっかりと見据え、戦争の真実を明らかにし、こうした誤りを繰り返さない方策を皆で検討して戦争の無い平和な21世紀を築こうではありませんか。それこそが真の文明であり、そのために不可欠なのが戦跡考古学です。戦跡の保存と研究の一大民衆運動を興隆させるために、皆で神奈川県川崎大会を成功させましょう。

若者たちと戦争展

亀岡 敦子

1992年12月、第1回戦争展を開催したときから、私達実行委員が大事にしてきたプログラムに、「若者の発表」があります。戦争体験者の話や、専門家の講演を聞く場と同じくらい、伝えられる側である若者の、意見発表の場も大切である、と考えたからです。第1回と第2回は10数名の高校生の討論会で、司会進行も自分たちで行いました。初回には風船爆弾を知るために、こんにやくのりを使い紙はり作業も、経験しました。まだこのころは研究発表というよりも、自己紹介とそれぞれの思いを語る域を出ませんでした。

様相が一変したのは第3回からで、2人の高校生が、毒ガスの島大久野島と、日吉台地下壕について発表をしました。第4回も高校生が大勢の戦争体験者に聞き取りをかさね、文化祭で展示をした経緯を報告しました。第5回は大学生がサークル活動の研究や、個人的研究の報告がされ、内容も変化にとみ興味深いものでした。韓国を歩き、日本人として考えたこと、藤沢市に残る地下壕を調べたこと、戦時中の女性の服装についての研究などです。

第6回は高校生が、クラブ活動の成果を報告し、戦争を語り継ぐために自分達は何をすべきかと、真剣にかたり、大学生はアジアでの戦争の実相に迫ろうとしました。第7回は中学生をふくむ3組が発言し、中国留学から見てきたことや、広島を訪ねて感じたことなど、率直な内容が共感をよびました。第8回には3組の大学生が発表しました。ひとりの学徒兵の思索を追い、現代の自分の生き方にまで深めたり、沖縄の戦時中の教育問題に取りくんだり、日中の若者の意識調査報告という多彩なものとなりました。

このように、延べ40人以上の若者が、自発的に名乗りをあげ、テーマを選び、資料を用意し、大人の前で臆することなく発言をしてきました。しかも、自分とは無関係な歴史上の出来事ととらえるのではなく、語り継ぎ、平和な社会の担い手としての認識をもっているのです。これは、ほとんど全員に共通しており、大人たち、特にあの時代を知る世代には、大変心強く思えたようです。年々、戦争体験の風化と、若者の無知無関心を嘆くこえは大きくなります。せめて私達にできること、若者たちに、一緒に考え発言する場所を用意することのようにおもえます。

今年8月4日、5日の2日間、戦跡保存ネットワーク全国大会が、ここ神奈川で開かれます。これは第9回「川崎・横浜平和のための戦争展」をかねるものです。4日には作家澤地久枝さんの記念講演もあり、日本各地の戦争遺跡の展示も予定しています。皆様の参加おまちしています。



活動の記録

2000.10~2001.1

- 10/4 16:30~会報55号発送
18:00~ 第5回運営委員会
慶応高校物理教室
- 10/23 箕輪・管制本部地下壕について、
市長への要請文に回答。横浜市庁舎会議室
(文化財課長、災害対策室防災技術課長、
係長、) 保存の会より5名出席
市は国の詳細調査を待つ。23日以降地
元に説明、工事へ)
- 11/4 日吉台地下壕工事韓国人体験者の
聴き取り調査 李圭植氏 孫正寅氏宅にて
- 11/8 18:00~ 第6回運営委員会慶
応高校物理教室
- 11/17 横浜市災害対策室で艦政本部地下
壕の埋め立て計画図面を閲覧
- 12/7 18:00~第7回運営委員会
慶応高校物理教室
- 12/10 日吉台地下壕工事韓国人体験者の
聴き取り調査(2回目)
- 12/16 勉強会(慶応日吉ピースウオーク
関係資料:講師 新井揆博氏) 慶応高校物
理教室 保存の会忘年会

予定

- 1/25 16:30~会報56号発送
18:00~第8回運営委員会

見学会

- 10/6 日吉台中学校PTA成人委員会
41名 案内2名
- 10/14 慶應義塾教職員生協38名 案内
3名
- 10/22 高田中学校PTA家庭教育学級
35名 案内3名
- 10/28 JASS(セカンドライフクラブ)
33名 案内3名
- 11/25 神奈川県高等学校教科研究会社会
科部会歴史分科会史跡踏査部55
名 案内3名

川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会
(戦争遺跡保存全国シンポジウム
神奈川県川崎大会実行委員会)

- 10/20 日吉地区センター
11/15 日吉地区センター
12/26 川崎国際交流センター会議室

予定

- 2/3 川崎平和館

本の紹介

「もっともっともーっと神奈川！」

編集 もっかな探検隊・アリスセンター
(A5版 241ページ 1500円)

県内のNPO(民間非営利組織)や、その活動にかかわる人たちをもっと知って欲しいとの願いを込めた本。「今どきまっとうな人・店・グループを訪ねて◎もっかな探検隊が行く!!!」280団体と50の人、店、グループを紹介。日吉台地下壕保存の会、横浜川崎平和のための戦争展実行委員会、平和のための戦争展inよこはま実行委員会もリストアップされています。

ビデオの紹介

「わが足の下 日吉台地下壕潜入！」

慶應義塾大学放送研究会制作
2000年11月(約25分)

2000年度慶応大学三田祭で発表された作品。保存の会が取材に協力しました。保存の会にありますので、興味のある方はお問い合わせ下さい。

